

令和7年度第2回新潟市南区地域福祉アクションプラン推進委員会 会議概要

日 時 令和8年3月9日（月） 午後2時00分～午後4時00分

会 場 新潟市南区役所 4階 講堂

<p>午後2時00分 事務局</p>	<p>開会</p> <p>これより、令和7年度第2回南区地域福祉アクションプラン推進委員会を開催いたします。</p> <p>本日の進行を務めさせていただきます、南区健康福祉課の地引と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議は、後ほど会議録を作成する関係上、録音させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、開会にあたりまして、南区健康福祉課長の小林よりごあいさつ申し上げます。</p>
<p>健康福祉課長</p>	<p>皆様、こんにちは。本日はお忙しい中こちらの会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ようやく春めいてきたかなと思いましたが、朝、雪が舞うなど、まだ少し気候の寒暖差がありますが、皆様方、お元気でお過ごしのことと存じます。</p> <p>さて、皆様ご承知のとおり、南区地域福祉アクションプランですが、南区における子育て支援、障がい者福祉、高齢者介護者支援、地域づくりといった福祉分野ごとに関連するさまざまな施策を取りまとめた分野別計画と、区内各地域の生活課題の解決策を見いだすために、南区社会福祉協議会のもと、区民、福祉活動主体、福祉事業者などが協力して策定する地区別計画の二つの計画を総称したものでございます。</p> <p>本日のこの委員会の役割ですが、分野別計画の進行状況や評価を報告し、必要に応じて提言を行うこと、また地区別計画の各地域における進行状況を報告し、その内容がすべての地区に共有され、計画のさらなる推進につなげることとなっております。本日の会議ですが、主に今年度の取組みの進捗状況や評価について事務局側より説明いたします。委員の皆様からは、ご意見、ご提言をいただき、次年度、令和8年度の計画に活かしていきたいと思っておりますので、ぜひ関連なご意見をお願いいたします。</p> <p>なお、現在のアクションプランでございます、皆様の任期も2年目もちょうど終わるということですが、今、第3期計画として来年度、2026年までの計画で一区切りということになっております。本来ですと、令和8年度につきましては、次期の第4期の計画策定に向けて準備を進めていくこととなりますが、現在、策定方針などを市全体でまだ検討している最中でございます。また決まりましたら、新年度になりますが、機会を設けて皆様方にご説明させていただきたいと思っております。</p>

事務局	<p>それでは、本日も長時間になりますが、皆様から忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>続きまして、南区社会福祉協議会の小林事務局長よりごあいさつ申し上げます。</p>
南区社会福祉協議会事務局長	<p>改めまして、皆様、こんにちは。南区社会福祉協議会事務局長の小林と申します。今ほど小林課長からお話がありましたとおり、今回は今年度の評価という部分を中心に、皆様方からご審議いただければと思っております。限られた時間になってしまいますが、皆様からさまざまな意見、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>青木委員長はじめ、皆様方、ご多用のところではございますが、このようにご出席いただきましたこと、大変感謝申し上げます。それでは、どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。まず、事前にお送りし、本日お持ちいただいたものですが、右上に資料1と表示されております「令和7年度南区地域福祉アクションプラン分野別計画進行管理表」でございます。それから、資料2「令和7年度南区地域福祉アクションプラン地区別計画評価表」、以上の2点でございます。予備がございますので、お忘れの方がいらっしゃいましたらお声掛けいただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>次に、本日配布の資料についてです。3点ございます。1点目が次第、それから2点目が委員名簿、それから3点目が座席表になります。お手元でございますでしょうか。</p> <p>なお、委員名簿のほうをご覧いただいて、本日、そこに記されているところで、遠藤委員、それから小武内委員、それから笠原委員、それから本間委員は欠席となっているかと思っております。それからご連絡はないのですけれども、真柄委員、それから小武内委員の下の藤井委員、ご欠席の予定になっておりますので、よろしく願いします。</p> <p>以上、資料の確認になりますが、よろしかったでしょうか。</p> <p>それでは、委員長より今後の議事の進行をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
青木委員長	<p>かしこまりました。皆さん、こんにちは。</p> <p>では、私から次第に従って議事を進めさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>最初に議事の（1）番目になりますが、南区地域福祉アクションプランの分野別計画における令和7年度の取組みと評価ということで、</p>

事務局	<p>資料1に基づいて事務局より説明をいただきたいと思います。では、よろしくお願いたします。</p> <p>議事の(1)の令和7年度の分野別の取組みと評価につきましては、資料1を基に説明させていただきます。計画どおりに進めることができなかつた箇所や課題などを中心にご説明したいと思います。分野別計画は4分野ありますけれども、一度にご説明しますと長くなりますので、半分ずつ説明して、その都度ご意見、ご質問を受けたいと思います。まず、子ども・子育て分野、それから障がい者・生活困窮者分野について、それぞれ担当よりご説明申し上げます。</p>
事務局	<p>南区健康福祉課こども支援担当の柏森と申します。子ども・子育て支援分野についてご説明させていただきます。資料1、令和7年度南区地域福祉アクションプラン分野別計画進行管理表の1ページをお開きください。</p> <p>分野別計画子ども・子ども支援、基本目標「安心して産み子育てできるまち」、(1)「妊娠期からの切れ目ない支援」について、令和7年度の計画、取組みの主なものについてご説明いたします。</p> <p>具体的な取組み・事業の一つ目「多様な手法による子育て情報の発信」では、股関節検診等の各種健診や育児相談会、新生児訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を発信しました。</p> <p>二つ目「子育て中の保護者同士の交流促進、ネットワークづくり」では、子育て支援リーダー、愛称子育て応援ジャーみなみにより子育て広場を53回開催し、延べ930人の参加の見込みです。また、公民館とともに行った乳児期家庭教育学級2講座では、27組の参加がありました。</p> <p>続いて、取組みの三つ目「訪問・相談事業の強化」と四つ目「支援の必要な妊産婦への支援」では、妊娠期からマタニティナビゲーターや地区担当保健師、助産師が妊婦への連絡を行い、出産後も継続して支援を行いました。また、育児不安のある産婦に早期にかかわり、すべての赤ちゃんに家庭訪問を実施しました。</p> <p>次に(2)「地域で支えるゆとりある子育てへの支援」についてです。取組みの二つ目「地域住民全体で子どもを育む意識の向上」では、南区の子育て支援について、令和7年6月に地域で考える情報交換会を開催して、地域の皆様と情報交換を行いました。</p> <p>2ページ目をお開きください。取組みの二つ目「子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援」では、子育て支援リーダースキルアップ研修を8回実施し、子育て広場開催に必要な知識の習得等、</p>

<p>事務局 事務局</p>	<p>リーダーの育成支援を行いました。</p> <p>(3) 「子育て支援施設の充実」についてです。取組みの一つ目「子育て中の親子の居場所の確保(再掲)」では、つくし園利用者数は4,647人と前年以上となる見込みですが、児童館、児童センターは9万8,111人と前年の92パーセント程度になる見込みです。前年の利用者数との差は10パーセント未満であったため、評価はAとしております。引き続き児童館、児童センターの魅力の発信に取り組み、居場所を周知していきたいと考えております。</p> <p>取組みの二つ目「児童館・地域子育て支援センターによるネットワークの構築」では、児童館運営協議会や支援センター会議を通じて関係機関の情報共有、意見交換を行うことでネットワークのさらなる強化を図ります。</p> <p>以上で、子ども・子育て支援分野の説明を終わります。</p> <p>続いて、障がい者福祉分野になります。</p> <p>南区健康福祉課障がい福祉係の高澤と申します。障がい者・生活困窮者支援分野の令和7年度実績についてご説明いたします。3ページをご覧ください。</p> <p>「障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち」を基本目標として、(1) 「福祉サービス利用の相談体制充実」、(2) 「障がいのある人と地域との交流」、(3) 「自立支援体制の充実」の三つを柱に取り組みました。</p> <p>(1) の「福祉サービス利用の相談体制充実」の一つ目は、「基幹相談支援センターの充実」について広く周知を図るものです。同センターは、地域における相談支援の中核的な役割を果たすものと位置づけられていることから、学校や園、障がい関連事業所に関係機関合同研修会で周知したほか、広く区だよりなどで広報を行いました。また、同センターが主催する相談支援事業所連絡会やグループホーム連絡会を通じて関係者の連携強化、スキルアップを図りました。いずれも計画通りであり、評価をAとしております。</p> <p>(2) の「障がいのある人と地域との交流」につきましては、地区社会福祉協議会の事業の中で障がい者との交流や訪問を通じ、顔の見える関係をつくることができました。また、小中高の総合的な学習の中で福祉や障がいに関する講話を行いました。いずれも計画どおりであり、評価をAとしております。</p> <p>(3) の「自立支援体制の充実」の一つ目ですが、障がい者地域自立支援協議会を計画のとおり4回開催いたしました。協議会では、児</p>
--------------------	---

	<p>童ワーキング、地域生活支援拠点ワーキングの二つの部会を設置しており、南区の地域課題である障がい児の早期支援や家族支援、障がい者間のネットワークづくりなどについて検討を進めました。</p> <p>また、二つ目ですが、南区社会福祉協議会の事業で南区地域福祉ネットワーク会議を2回開催し、地域と事業所のつながりをつくることにより新たな助け合いのきっかけとなりました。</p> <p>下から3番目の「生活困窮者の就労支援」ですが、就労支援対象者の7人に対し就職者は3人であり、計画の50パーセントには若干届かなかったため、評価はBといたしました。</p> <p>次の「生活困窮者の相談支援」は、令和7年度は新規で47件の相談を受け、そのうち10件では生活困窮者自立支援制度の各事業を活用しました。また、活用に至らなかった相談者に対しても、関係機関と連携して支援を継続しています。併せて南区支援会議を運営し、専門職が連携してよりよい支援ができるよう、ネットワークづくりを行いました。</p> <p>以上で、障がい者・生活困窮者支援分野の取組みについての説明を終わります。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございます。では、今ほど説明がありました子育て分野と、障がい者・生活困窮者分野について、ここ、特に切れ目というか、区切れ目は入れませんので、子育て、障がい者、また生活困窮分野、どこのページからでも構いませんので、ご質問、またご意見等がございましたら、挙手をいただきたいと思います。議事録を今作っている関係もでございますので、お名前と所属等も併せてご発言をいただきたいと思います。では、いかがでしょうか。どちらからでもけっこうでございますが。では、仲野委員、お願いします。</p>
仲野委員	<p>茨曾根の推進委員の仲野と申します。子育て支援のところで一つ質問があります。</p> <p>一番目に「多様な手法による子育て情報の発信」という取組みみがございますが、これは、今、情報の発信ということですが、どのような手段で対象のママさん方に発信しているのか。例えば手紙を送っているというのも一つだと思いますし、今、こういう時代ですから、携帯電話の例えばライン等で情報を送るとか、いろいろなツールがこの時代ですからあるかと思うのですが、実際にどのような手段で情報発信されているのか、その辺を確認したいと思います。</p>
青木委員長 事務局	<p>では、事務局、お願いできますでしょうか。</p> <p>健康増進係の岩見と申します。</p>

	<p>市から保護者、お子さんへの情報発信の方法はいろいろありますが、ここに書いてあることに関して申し上げますと、健診の場面では問診と健診が終わった最後の指導のお話のところで必ず一組に一人専門職が付いてお話の聞き取りとか個別相談をしますので、主にここで言っている情報発信というのは、1対1の個別のお話の中でその人が知りたいことに対してお教えする、例えば離乳食のこととか、遊び場のことだとか、保育園の入園の仕方とか、そういう個々のご相談に応じたことを情報発信しているのが一つです。あとは、配布物がそれぞれにありますので、その配布物の中で皆さんに同じ情報が行き渡るように、セットしたいろいろなチラシをお配りしています。</p> <p>新生児訪問のところでは、すべての赤ちゃんのところに必ず家庭訪問を2回を目安に行っていますので、そこもやはり家庭にお邪魔したときに、個別の相談があれば、それに対して相談にのる形で、情報発信という表現をしておりますが、個別相談にのっているというような実態です。</p>
仲野委員	<p>ありがとうございます。了解いたしました。</p> <p>私の感覚としては、けっこう役所側から一方的な情報発信で終わっているのかと、それにしてもこれだけたくさん、大勢の方が集まっていらっしゃるなという認識だったものですから、個別訪問ということで、個別にフォローされているということで、非常に重要なことだなと思いますので、どうもありがとうございました。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございました。これは、計画の中の項目なので情報発信と、これは変えられないのですか。今、仲野委員がおっしゃったとおり、これをぱっと見る限りでは、広く区民に向かってみたいなこと、私も深く読まなければSNSも使っているのかなと思ったら、実際のところは1対1の個別の対応だということが今の説明で分かりました。その辺は、次期計画の表し方も必要かなと思いますけれども、少し事務局で念頭に置いていただきたいと思います。</p>
青木（昭）委員	<p>では、ほかにいかがでしょうか。青木委員、お願いします。</p> <p>公募委員の青木です。</p> <p>3ページ目です。3ページ目の下から三つ目、それから二つ目ということで、生活困窮者の就労支援、相談支援という内容です。確認なのですが、この就労支援、それから相談支援、承知している分母というか、人員はどのくらいいらっしゃるのでしょうかということと、それから6年度の実績の中で相談件数が66件、就労支援対象者12件というのは、66件の相談があったうちで就労支援者が12名いたと</p>

<p>青木委員長 事務局</p>	<p>いう解釈なのかどうか、それぞれの就労支援と相談支援の分母の数はどうなのかなというところです。</p> <p>では、事務局、お願いできますでしょうか。</p> <p>保護系の田中と申します。私から説明させていただきます。</p> <p>まず、就労支援の対象者、相談の対象者の母数というか、何名把握しているかというところですが、こちらに書かせていただいているのは、新規相談件数が令和7年度は47件、就労支援対象者が7件という形で、支援が必要な人がどれだけいるかというところまでは把握できておりませんが、相談として来た件数が新規でこの数あったというところになります。</p> <p>2点目の就労支援の対象者と相談件数の数についてですが、新規相談件数、令和7年度は47件ありましたが、その中で就労支援対象になったのが7件丸々あるかと言われるとそういうわけではないと思っています。あくまでも新規相談者数が47件になっていまして、継続している相談の中で就労支援の対象となった方が7人いらっしゃるという形になりますので、新規の中、また継続の方合わせて7人の就労支援対象者がいらっしゃったという数字になっています。</p>
<p>青木委員長 青木（昭）委員 青木委員長</p>	<p>いかがですか。</p> <p>分母は分からないということですね。分かりました。</p> <p>今、大事なところを青木委員から指摘していただきました。私も、いわゆる事務局の自己評価としてB評価、生活困窮者の就労支援の部分ですね。お一人お一人、皆就労に就くためのプロセスは一人ひとり違いますので、いわゆる十羽ひとからげにできない部分ですね。ですから単純に、例えば対象者が7人いて、7人ともうまく仕事に結びついた、100パーセントよかったよかったということなのか、それとも例えば今回の場合だと半分の3人ですから、50パーセントに満たないから評価はBだということになるのですけれども、ここが地域福祉活動計画といいますか、このアクションプランのいわゆる評価の難しいところで、数字に表れてこない論点が確実にありますよね。この3人の方はうまく結びついた、では残りの4人の人は何もしていなかったのかどうかというのはこの数字の中では分からないし、あとはその4人の人も努力はしたのだけれども結果的にはつながらなかったかもしれないし、その辺がよく分からない点があるので、そのご苦勞の部分が数字の中には見えないところ、これがこの地域福祉活動計画や地域福祉計画の難しいところなのですね。とは言え、何も評価基準みたいなものを表さないで感覚的にやってしまうと、どうしても手前味噌み</p>

	<p>たいな計画評価になってしまうので、どうしても目標を数字として上げていかなければならないということがありますので、そういうところも少し裏といたしますか、思いも馳せながらこの計画を読んでいただけるとよろしいのかなと。そういうところを今青木委員からご指摘いただいたところで、気づかされたところもございますので、ぜひとも皆様方も数字も大事なのですが、その数字の隙間といたしますか、数字に隠れた部分も少し思いを馳せながら伺いいただけるとありがたいなと思っております。ありがとうございます。</p> <p>では、ほかにいかがでしょうか。どういうことでもけっこうでございます。</p>
古川委員	<p>質問というか、私の認識不足、私も個人的に、昨年、新生児訪問を受けて、新潟市の場合は2回ですか、訪問していただいて、話によると他市では1回しかしていないところもあると聞いたので、とても2回という訪問、さらに必要な方もいらっしゃると思うのですが、協力していただきたいと思いました。</p> <p>それから、困窮者というところで、私、少し認識不足なのですが、ここでは関係ないかもしれないけれども、フードバンク的なことは南区独自でそういう常設のところは、福祉センターでしているみたいなことを聞いたのですが、その辺を少し、もし南区独自でフードバンク的なことをして貧困者の救済を、関係ないかもしれないのですけれども、その辺を少しお伺いできたらと思います。</p>
青木委員長	<p>では、事務局、フードバンクの取組み、南区はどうなっているかというご質問でございますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>保護係の田中です。</p> <p>フードバンクについてですが、区のほうで設置しているというものはこれまでございませんが、フードバンクにいがた南というところで南区の方を主な対象としたフードバンクというものが立ち上がって、必要な家庭に食糧支援だったりとかをしているというのは聞いております。</p>
青木委員長	<p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。こういうご質問でも本当にありがたいです。改めて地域の社会資源を皆で知るという機会は大事ですので、全然関係なくなくて生活困窮者の話ですから、フードバンクはどんぴしゃりですので、どうぞそういうご質問もたくさんいただきたいと思えます。</p>
池田委員	<p>では、ほかにいかがでしょうか。</p> <p>根岸の池田です。</p>

<p>青木委員長 事務局</p>	<p>だっちもない質問だと思うのですが、1 ページ目の「妊娠期からの切れ目のない支援」の真ん中辺りで、評価Aで文句を言うこともないと思うのですが、 「子育て中の保護者同士の交流促進、ネットワークづくり」のコメント欄に、6 年度野外交流会で 11 家族、計画の 7 年度は 10 家族、実施は抽選のうえで 12 家族という解釈をしたのですが、何人の方が出たいということになって、何人の方がはねられたのか。交流会だから、野外ということになれば 10 家族に止めなくても、A 班、B 班で 20 家族くらいできるのではないのかなと。申込みをして抽選のうえ外れた数、可哀そうだな、どうだったのだろうなと思って、合致のない質問で申し訳ないのですが、白根、南区、あまり人数の増加もないし、いろいろな子育てしている方たちがいるのに抽選で外れたというのは可哀そうだなと思ったので、その辺を聞きたいなと思ひまして、よろしくお願ひします。</p> <p>では、事務局、お願ひいたします。</p> <p>家族交流会についてですが、農家の方の畑をお借りしてサツマイモを育てていただき、そちらをイモ堀りということで家族で交流していただくということでやっております。面積とかの関係がございまして、どうしても限られてしまうものなのですが、応募状況といたしましては、応募総数が 53 組ございました。そのうち南区の方が 28 組で、南区以外からもたくさん応募をいただいて 25 組から応募をいただいております。当初、10 組で募集をかけていたのですが、結果 15 組の当選をさせていただいております。たくさんいらっしやったので南区の方を中心に、中心というか、南区を限定して選ばせていただいております。参加の 12 組なのですが、残念ながら 3 組は体調が不良とかということで、ご都合ができたということでキャンセルをいただいたので参加 12 組ということで、結果としては 15 組当選させていただいたのですが、12 組の参加がございましたということでございます。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>というご説明ですが、いかがですか。申し込んだら全部引き受けてもらいたいという気持ちですよね。</p>
<p>池田委員</p>	<p>サツマイモとは分からなくて、芝生の上なら 20、30 組、どこかの公園で何かやれたのかなという先入観があったものですから、……。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>であれば、イモ堀りではない別のプログラムを考えていただくとか、区外の人も申込みがあったということでありますが、やはり南区の事業ですので、南区の区民を優先してということで配慮をいただいたようですが、この辺も次年度のプログラムでしょうか、その中身を、こ</p>

	<p>れが 100 人、200 人となると話は別ですけれども、でも 53 組希望があるというのはすごく注目度が高いのかなということもありますので、できる限り申し込んだ人、希望者はすべて引き受けられるような何か知恵を働かせていただきたいと、池田委員、そういう思いでしょうか。少し代弁させていただきました。ありがとうございます。</p>
<p>泉委員</p>	<p>では、ほかにいかがでしょうか。</p> <p>先ほどの方、庄瀬の方がフードバンクのことをお話しになったので、私も初めて公に小林でこども食堂ですか、去年、皆で対象の方を集めて何かしたいという話が出たのですけれども、その会はまだ 1 回しかしていないのですけれども、以前、大通で子どもさんを集めてこども食堂をやっているというのは私は個人的に友達から聞いていたのですけれども、庄瀬は大人の方というか、一人家族というか、一人世帯の人にお弁当を配るとかをやったというのですけれども、ほかに地区で何かそういうことをやっておられる方もいらっしゃると思うのですけれども、少しお伺いしたいのですけれども。それこそお話が違って申し訳ないのですが、お願いします。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>では、南区内でのこども食堂の取組みの現状のようなもの、事務局のほうで情報共有できますでしょうか。皆が顔を見合わせていますけれども、社会福祉協議会はどうでしょうか。</p>
<p>社会福祉協議会</p>	<p>南区社協の荏原です。南区内で定期的に行われているところが大通の 1 か所です。月に 1 回やっておられます。そのほかにライオンズですとか、あと先ほどお名前が出てきましたが、フードバンクにいがた南でも親子食堂というふうに行われているようなのですが、そちらは不定期とお話を聞いています。ライオンズは、夏休みですとか、春休み、冬休みというところで年 3 回だったと思いますが、開催されておりました。情報としては、そのような形です。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>よろしいでしょうか。新潟市のみならず、今、こども食堂が本当に全国に広がりを見せています。いろいろ目的はあります。当初、子どもの孤食、子どもが一人で夕飯を食べたり、例えば長期の休みとか、親が仕事に行っているときに自宅で一人になるなどということもあって、それが今度は変な差別につながらないように、いわゆるこども食堂に来ている子どもというのは、いわゆる生活が苦しい家庭の子どもなのだというレッテルを貼られては困るので、広く広く子どもさんを受け入れて、今度は子どもだけではなくて、今度は一人暮らしのお年寄りも含めてなどということで、どんどん形を変えながら広がりを見せていますので、今後、南区においてもそういう取組みがさらに広が</p>

<p>事務局 事務局</p>	<p>る、これは誰かが音頭を取ってやるということが一番長続きすると思 いますので、動きがあったらぜひ推進委員の皆様方も側面支援してい ただきたいと思ひます。</p> <p>あとほかはいかがでしょうか。では、特にないようです、では、 事務局に一旦お返ししたいと思ひます。</p> <p>それでは、続きまして高齢者福祉・介護者福祉分野になります。</p> <p>南区健康福祉課高齢介護担当の川瀬と申します。高齢者介護者支援・ 健康寿命の延伸の取組みについてご説明いたします。4ページをご覧 ください。</p> <p>「高齢者も安心して暮らせるまち」を基本目標に、(1)「高齢者・ 介護者を見守り支え合うしくみづくり」、(2)認知症対策と在宅医 療に対する理解の推進」、(3)「健康寿命の延伸」の三つの目標を 掲げ取組みを進めてまいりました。</p> <p>一つ目の目標「高齢者・介護者を見守り支え合うしくみづくり」の うち「地域全体で高齢者を見守る体制の構築」について、ふれあい・ いきいきネットワーク事業の利用団体数は1団体で、また地域のネッ トワークを活用した配食サービスを提供し、高齢者の栄養改善や安否 確認を行いました。</p> <p>次に「支え合いのしくみづくりの深化・推進」及び「高齢者の総合 相談窓口『地域包括支援センター』の周知」の取組みにつきましては、 計画に対して達成したものと評価し、A評価といたしました。新規の 茶の間の開設が1件、ニーズのある地域に対して移動茶の間の支援活 動を行いました。また、「ともに生き支え合う南区地域づくりフォー ラム」は子育て支援をテーマに開催し、幅広い年代が活躍できる地域 づくりや子どもたちを真ん中に添えた取組みについて3団体から発表 していただき、これらの発表を通じて地域活動のさらなる推進につな がる機会となりました。次の「地域包括支援センター」の周知につ きましては、10月に大型小売店で開催しました出張相談会では、関係機 関と協力し、健康チェックや何でも相談を行いました。</p> <p>次の「地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築」の取 組みにつきましては、会議を開催し、地域の助け合い活動に参加して いる方の困りごと、ニーズを把握、今後の連携について話し合いを行 い、また地域において自分の立場でできること、期待されていること を再確認し、関係者同士の連携がスムーズに支援につながることを改 めて認識しました。それぞれの課題や個別の問題の解決に向けて、関 係者間で情報共有が図れた点を評価しA評価といたしました。</p>
--------------------	---

事務局	<p>続きまして二つ目の目標「認知症対策と在宅医療に対する理解の推進」についてです。上から三つ目、「認知症の理解を深め、介護者を支える地域づくり」についてですが、南区だより9月7日号に認知症の特集記事を掲載、10月には認知症カフェ10周年イベントを開催しました。関係機関からの協力を得て、当日は88名の参加があり、歌や子どもたちのフラダンス、体操などで大いに賑わいました。また、認知症サポーター養成講座を開催、働く世代や子どもたちに対して認知症への理解を深める活動を行いました。そのほか、介護教室、認知症予防出前講座を含め、令和7年度は認知症について重点的に取り組み、そのことを評価して認知症関連の項目はいずれもA評価といたしました。</p> <p>在宅医療の普及、啓発については、区内の関係者のネットワークと協働して、2月に白根学習館のホールで「幸せの方を向いて生きる」と題し、自分が最後に望むあり方を今から考えることをテーマに講座を開催しました。270人の受講があり、その内容も多くの方からご好評をいただき、在宅医療や今後の意思決定について考える機会を提供することができました。</p> <p>次に(3)「健康寿命の延伸」についてです。取組みの一つ目は「ミニドッグ型集団健診の実施」ですが、これは健診を受けたことがない方が健診を受けるきっかけとなるように実施しています。手紙や電話での受診勧奨を行いました。自主的な予約が少なく、合計135名の受診でした。来年度も定員に近い予約数が入るよう、働きかけを続けていきます。また、この受診者の約7割が要受診の判定となっており、この方々が受け放しで終わらず、きちんと医療機関を受診し、生活習慣病に移行しないよう治療し、毎年度継続した健診受診につながるよう、周知や指導を行ってまいります。</p> <p>続いて「はかろう体重！あるこう南区！大作戦」についてです。記録カードの提出数が目標に達せずBですが、初めて参加した人は増加しました。健康づくりに関する講座の実施については、概ね目標のとおり開催して、参加者も増加傾向です。</p> <p>最後に「地区の健康づくり活動の推進」についてです。地区の集まり等の場で健康教育を33回実施しました。今後は、未実施のコミ協地区が生じないように、全地区での実施を目指します。</p> <p>以上で、高齢者介護者支援・健康寿命の延伸についての説明を終わります。</p> <p>続きまして、地域づくり分野になります。</p>
-----	--

事務局	<p>それでは、地域づくり分野について、南区社会福祉協議会の後藤と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>ページは、6ページをご覧ください。今年度もそれぞれの目標に合わせた地域づくりを進めるために、社会福祉協議会としての活動、事業を行いましたので、主な取組みについてご報告いたします。</p> <p>まず一つ目「地域のボランティアや福祉活動の情報発信と活動支援」についてです。上から4段目です。「ボランティア養成講座の開催と活動の場の紹介」では、計画では2回、1回は福祉講座を行いました。実施させていただき、もう1回はこども食堂をテーマにしたボランティアきっかけづくりの講座の開催を計画していましたが、南区内で先ほども少しお話ししましたが、実際に活動できるこども食堂がまだ少なく、具体的な活動の場が想定できなかったため、今回は開催は見送らせていただきましたところ。そのために、C評価ということにしております。</p> <p>その下、「総合的な学習の時間をはじめとした福祉教育の充実」についてです。新たにユニバーサルデザインと知的障がいの新しい体験プログラムを作成したこともあって、いろいろな選択肢が増えたことも鑑みまして、当初予定よりも多くの総合学習で福祉教育を取り上げていただく授業が増えました。</p> <p>続きまして七つ目「ボランティア活動支援」についてということで、社協だよりの合併号に、4月号、9月号ではボランティア団体を活動別に分け、写真付きで紹介しております。内容が分かりやすくなったことで活動のイメージが広がって、依頼件数の増加にもつながったと評価しております。</p> <p>その下、「災害ボランティアの育成」についてということで、地域防災学習、講義のほかに、災害ボランティアセンターの周知、理解を目的に、活動の写真を紹介しながらリーフレットを用いて個別に説明に回りました。地域の皆さんに伝わりやすいよう、分かりやすさを意識しながらボランティアの理解に努めていたところ。です。</p> <p>大きく2番目の「地域の茶の間・ふれあいいきいきサロン活動の支援」のところになります。三つ目の「地域の茶の間の活動紹介や内容メニューの冊子作成」についてです。支え合いのしくみづくり会議で作成した講師派遣メニューを3月中に更新して、さらに南区社協のホームページで公開することで、最新の情報と活用のしやすさを工夫しております。</p> <p>その下、「地域の茶の間の立ち上げ支援」についてになります。計</p>
-----	--

画では2団体としており、地域の茶の間の空白地域への働きかけ等を行ったのですが、実際、地域の茶の間の立ち上げを希望する団体が少ない現状もあって、1団体に留まったところです。

その下、「地域の茶の間の世代間交流会の開催」についてです。地域の実情もありまして、計画よりも予定が1か所少ない9か所と実績になっております。

続いて次のページをおめくりください。「関係機関と連携した地域の茶の間の支援」についてということで、地域の茶の間の移動支援についてです。地域の茶の間の支援としては継続して行っているのですが、新たに課題として捉えた評価はしませんでしたので、今回大きいところの相談が上がってこないというところを鑑みて実績なしとさせていただきます。

3点目、「個別・地域課題の解決に向けた取り組み」についてということで、一つ目「ひきこもりに関する講座や家族の居場所、関係機関連絡会などの開催」についてです。連絡会については、継続して開催することで、移動などで職員が交替した場合でも新潟市のひきこもり相談支援センターと関係機関とのつながりづくりの場となりまして、併せてそういうところの相談先の周知ということで関係者の連携を図って実施しております。

二つ目、「買い物など移動支援の検討」についてになります。ある一つの地区では、通院に関する課題が上がったことから、地域での仕組みづくりについての検討会を実施したというところがございます。五つの生活支援の団体の中を中心にした生活支援サービスサミットにおいては、各地域で実施している活動を共有することを目的として開催をいたしております。今回、南区の公共交通の現状について行政から報告をいただくなど、地域課題に関する情報交換を行っております。

その下、「コミュニティソーシャルワーカー相談体制の充実」についてになります。一人親世帯及び生活困窮世帯への食料支援では、食品の受け取りの機会を通じて世帯が悩んでいる生活状況の確認や相談につながるということで、機会として行っております。この事業、一方コロナ禍から以前の生活に戻り、さまざまなこども食堂などの支援団体も増えてきたことから、食料支援というところの事業は、今年度をもって終了とさせていただきます。

以上で、社協として取り組んだ地域づくりの実績についてご説明いたしました。一部停滞した取組みもありましたが、目標を上回るものもあり、概ね計画どおり実施できたかなと考えておりますが、ありが

事務局	<p>とうございました。以上で社協からの説明を終わります。</p> <p>健康福祉課地域福祉担当の山田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。今ほどの7ページの下のほう、「避難行動要支援者に対する支援の充実」をご覧ください。</p> <p>「避難行動要支援者名簿と登録対象者の確認」につきましては、名簿の管理が市の統一システムで行っておりまして、名簿登録の更新時期は6月と12月の年2回となっております。今年度も例年どおり年2回行っております。これは、紙面で民生委員の皆様にお配りするものでありまして、登録は随時行っております。</p> <p>次の対象者の意識づけにつきましては、年1回、例年10月頃に、その年に新たに登録要件に該当した方で登録されていない方に対し、民生委員の皆様から個別に訪問していただき、制度の説明と名簿の登録の支援をお願いしているところです。今年度も10月に民生委員の皆様より実施していただきました。そのほか、地域総務課において区だよりで制度周知の記事を1回、7月と1月に自主防災会の支援者向けに制度の周知の文書を発送しております。以上の周知のほかに、令和7年度につきましては、健康福祉課と地域総務課合同で重度障がい者の名簿登録に当たって、地域の関係者と一緒に対象者の自宅に訪問し、制度の周知を図りました。</p> <p>要支援者の支援訓練については、情報収集訓練や避難誘導訓練などの重要性の高い訓練と併せて、要支援者を想定した訓練が盛り込まれて行われた結果として23団体中16団体で実施されました。地域総務課からは、引き続き制度周知並びに訓練の実施について周知を図っていくとのことでした。引き続き地域との協働により、避難体制の確立や避難行動要支援者の支援に向けて、地域総務課と協力して取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございました。それでは、今ほど高齢者福祉、介護支援分野、あとは地域づくりの分野、この資料No.1で言いますと、4ページから7ページまでのご説明を今いただいたところです。では、委員の皆様方からご意見、ご質問等がありましたら、どうぞお手を挙げていただきたいと思います。では、西野委員、お願いします。</p>
西野委員	<p>新潟市運動普及推進委員の西野です。よろしく申し上げます。</p> <p>高齢者関係、高齢者介護関係の件と地域づくりと、2か所、2点聞きたいのですが、まず最初に、高齢者介護、ページ数で4ページの(1)「支え合いのしくみづくりの深化」のところで評価がAになっていま</p>

青木委員長	<p>す。目標として参加者が 200 人計画しているところ、108 名の実績があったということで、人数からすると半数くらいなのですが、Aにしたのはほかの何かの影響があるのかお聞きいたします。</p> <p>それから、5 ページです。評価のところBのところは2か所ありますが、このBの2か所のところについて、どういう判断でBになったのか、今後の対策をお尋ねいたします。これが終わってから、地域づくりのほうもいたしたいと思います。</p>
青木委員長	<p>では、最初に4 ページの高齢者介護の見守りしくみづくりの二つ目の項目、「支え合いのしくみづくりの深化と推進」のところの評価Aとなっている理由を、最初に事務局からお答えください。</p>
事務局	<p>最初の質問のほうなのですが、2 番目の「支え合いのしくみづくりの深化・推進」のところなのですが、フォーラムとしての参加者は 108 名で計画の 200 人よりは半数ということで、満たしてはいないのですが、全体的な評価としまして 90 パーセント以上達成しているということでA評価と判断いたしました。</p>
青木委員長	<p>それから、今度は5 ページですね。5 ページ(3)の「健康寿命の延伸」のところは2か所B評価をつけていらっしゃいますが、このB評価の根拠といいますか、説明を西野委員は求めています。ご説明いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>健康増進係の岩見です。5 ページ目の上から二つ目、「はかろう体重！歩こう南区！大作戦」の目標に対して評価がBの理由ですが、この事業に参加した方が歩数を記録したカードを最後に出していただくのですが、そのカードを出していただく方が計画では1,000人、1,000枚が目標でしたが、今年度提出された方が677枚ということで、切り上げると約7割くらいということで、この表の一番上にありますB判定が概ね75パーセントくらいということで、そこは一つBからCにかけてくらいの数字だったと思います。あとは、その下にも一つ計画のポイントがありまして、カードを出してくれた方のうち、初めて参加したという人が、歩数が増加したという人が前年度より増えるというのをもう一つ目標に加えておりまして、そちらは初めて参加したという人が前年より増加したので、この提出枚数が75パーセントを切りましたけれども、初めて参加したという人は目標値を上回ったということで、相まってB判定と考えました。</p> <p>では、続けて5 ページ目の。次に移っていいでしょうか。もう一つ、最後の質問の。</p>
事務局	<p>地域保健福祉担当の天児と申します。一番下の「地区の健康づくり</p>

西野委員	<p>活動の推進」のB判定の理由なのですけれども、令和7年度の計画のところで全地区でコミ協単位で見てなのですけれども、実施するということで、南区ですと全地区12地区になるのですけれども、そのうちの9地区でしか実施できなかったというところがありましたので、B評価にさせてもらいました。今後については、こちらの動き、健康教育の実施がなくてもやっていける団体なのかなということでは考えていたのですけれども、私どもが地域の状況を把握できていないというところもございいますので、来年度に関しては、全地区にお声掛けをさせていただいて、健康教育に入っていきたいと思っております。</p>
西野委員	<p>ありがとうございました。5ページが一番下のところで、全12地区あるところで3地区では実施されなかったということが実績のところ書かれています。幅広く実施していただければありがたいと、希望でございます。ありがとうございました。</p>
青木委員長	<p>次に、地域の関係で、やはり私が思うのは、6ページも7ページも評価ところがどうしても気になるのです。Cのところは2か所、7ページのところではDのところは2か所、これを、やはりCとかDを、せいぜいほぼ達成のBクラスに上げるのには、どういう取組みをしたらいいのだろうか。これは、南区だけが低いのか、それとも8区全体が低いのか、お聞かせいただければありがたいです。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございます。では、6ページの地域づくり、ここは主に社会福祉協議会でしょうか。このところのCとかDのところを今後どのようにして改善していくのでしょうかというところ、少しご説明いただけますでしょうか。</p>
社会福祉協議会	<p>西野さん、どうもありがとうございます。今回、これを集計するに当たって、実績に基づいて実際にこういう事実があったかないかというところで評価基準を設けています。つまりそういうところを考えると、実際に本当にこの計画の段階で正しい実施予定のものなのか、その辺りからしっかり考えて、そこにつながる実績というのをもう少し入念に計画していかなければいけないのかなと思っています。例えば相談が上がらなかった、事業につながらなかったから実施なしではなくて、数字ではない、目に見えない部分、その取り組みもしっかりある程度、先ほどお話もいただいたので、そういうところを踏まえながらやっていきたいかなと思っています。</p> <p>二つ目の、南区だけなのか、実際にほかの区はどうかということのところのあたりなのですが、これは正直恐らく8区の地区ごとで人口、さまざまな高齢者、子ども、世帯状況、数、課題も異なっており</p>

<p>青木委員長 西野委員 青木委員長</p>	<p>ますので、それは多分その地区ごとでの課題が出てくるかと思えます。今、私たちのほうで現状を考えると、南区ではこういう状況なのだよというところでお含みいただければと思えます。頑張っていきたいと思えます。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございます。それでは、地域づくりの6ページ以降のところ、コメント・課題のところ空白が目立っています。口頭での説明、補足はありましたけれども、できればここを埋めていただくとより理解が進むのかなと思えますので、事務局、社協のほうは次年度以降、これを作成するに当たっては、我々はこれでしか評価のしようがありませんので、できるだけ情報をここに記入していただけるとありがたく思えます。</p>
<p>仲野委員</p>	<p>では、ほかにいかがでしょうか。</p> <p>私、6ページの地域の茶の間のことについて質問というか、意見みたいな感じなのですが、一番下の項目に「世代間交流会の開催」という項目がございます。例えば私がいる茨曾根地区では、茨曾根小学校とタイアップといいますか、小学校の子どもたちが地域の茶の間に出掛けて行って、そこのお爺ちゃん、お婆ちゃんたちと一緒にゲームをしたり、お菓子を食べたりという、小学校の子どもたちと茶の間が交流する場を設けています。子どもたちが地域の茶の間に出掛けて行ったり、逆に小学校にそういうお爺ちゃん、お婆ちゃんたちを呼んで、学校でそういうふれあいの場を設けという事業をやっている、私たちがその仲立ちといいますか、今度はどここの茶の間に出掛けて行こうねみたいなことを、そういう橋渡しをやってあげているというのが、茨曾根ではやっているのですけれども、ほかの11小学校区でそういう事例があるのかどうか、これは特に社協の皆さんに相談しながらやっているわけではないと思うので把握されていないかもしれませんが、地域でそういう小学校の子どもたちとこういう交流をやっていたよというものがもしあれば、ほかの地域でもしそういうイベントをやっているのであれば、逆に私たちもそれを吸収して参考にしていきたいと思えますので、もし何かあればお教え願いたいと思えます。</p>
<p>青木委員長 社会福祉協議会</p>	<p>では、事務局のほうからご回答をお願いします。</p> <p>社協の荏原です。</p> <p>こちらで把握しているのは、月潟地区ですと保育園に声掛けをして、</p>

<p>仲野委員</p>	<p>どちらかという茶の間のほうからの声掛けで来ていただいて、交流を深めているというところと、あと、同じく月潟地区ですが、SCの声掛け、生活支援コーディネーターの声掛けで、夏休みの小学生に声掛けをして、二つの茶の間が交流をしている。あと、ほかにも味方にも同様に生活支援コーディネーターが声掛けをしてというところで、夏休みに交流をしているというところもあります。</p> <p>そういう形で、どちらかという地域の茶の間のほうからの声掛けというところがほかの地区は多いのかなと思っていて、仲野さんがおっしゃったように、茨曾根を真似したいというところで、次期、次年度はそのような取組みをしたいというような地区も声が上がっているところがあります。</p> <p>ありがとうございます。ぜひ、とてもお爺ちゃん、お婆ちゃん方も子どもたちが来るとものすごく楽しいと喜んでいらっしやいますし、こういう活動はこれからもずっと続けていきたいと思っているので、ぜひほかの地域にも参考にさせていただけたらと思います。ありがとうございました。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>ありがとうございました。茨曾根の今の取組みが区内全体に広がっていくということは非常に大事なかなと思って聞いておりました。一つ大事なのは、どちらからの働きかけかということも意外とあって、例えば学校の立場から言うと、自分たちの学校の子どもたちを、例えば茶の間に行くような方法を考えたときに、学校の校長先生の考え方一つで、子どもの移動に何か不安があるとか、安全確保をしなければならぬとかで、こういう活動にブレーキを踏むような傾向がないとも限らない、だけれども、茶の間のほうから学校に働きかけて、ぜひ世代間交流をしたいのだよという、意外とそういうものがクリアーになったりすることもありますので、どちらから声を掛けたとしても、安全確保が100パーセントとは言い切れないかもしれないけれども、きちんとその辺の対策、対応がとれるということでやられるとスムーズにいくのかなと思います。大変ありがたい実践、事例の報告がございました。</p>
<p>町屋委員</p>	<p>では、ほかにいかがでしょうか。</p> <p>(2)になるのでしょうか。認知症対策、在宅医療。私、大通で推進委員をさせてもらっております町屋と申します。質問なのですが、(2)の「認知症対策と在宅医療に対する理解の推進」ということで、前にも伺ったことがあるのですが、納得するかしないかは個人的なことみたいな形で片づけられたような形になってしまっ</p>

<p>青木委員長 事務局</p>	<p>たのですけれども、2番目なのですけれども、「地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築」ということで、こちらは地域包括支援センターと区役所の担当係長が集まって会議をされているのでしょうか。前はそのような形でお伺いしたのですけれども、区役所で会議されている内容が、私、この推進委員をしていますのと民生委員も地元でやっているのです。ちなみにこの会議をやっている内容がいくつかあるかと思うのですけれども、私ども民生委員に何も下りてきていないというのが非常に感じまして、そういう話がある一つ上にあります「ふれあい・いきいきネットワーク事業」ということで、確かに民生委員は高齢者、障がい者のお宅を訪問いたしまして実情把握はしておりますが、課題が生じたときの相談先に困ることも多々あるのです。そのときの解決策として、本来であればホームページの辺りにライン的な画面があって、チャット式みたいな形で困った内容を入力すると、時間はおいてもやむを得ないと思いますけれども、担当の方から返事をいただけるようなシステムがあれば困ったりはしないのですが、今年も民生委員は相当な人数がお辞めになられまして、新任の方が出てきております。今回、いろいろ課題があったのか、民生委員に対しての対応が非常に厳しいことも起きております。今後、こういうことがないよに私も自分の担当している地域の運営もきちんとしていきたいというつもりで今回もおりますが、地域の包括支援センターに相談をしても、持ち家の場合は本当に課題解決の様々な問題がありまして。どこに相談したらいいのかというのを、いろいろな冊子を見ますと協議会の代表に相談して対処するよにということが書かれているのですけれども、それは私も長くやっておりますので重々承知しておりますが、一番困っているのが、代表をやっている私がどこに相談したらいいかというのが困っている部分もありまして、いろいろな試料を見ながら課題解決の方法も考えておりますが、評価すること自体は私も非常に、これについては言うことはありませんが、やはり最善な対応、地域の皆様が納得していただける内容にしてしていただけるよう、やはり一番先端にいる民生児童委員が少しでも答えを見出せやすいように、今後、やはりそういうホームページの設定みたいなものを、もしできれば提案していきたいと思いますがという意見です。よろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。では、事務局、いかがでしょうか。</p> <p>各ケア会議の開催なのですけれども、まず区で1回、区の高齢者ケア会議というものがございます。そこには、区内の病院や薬剤師、居</p>
----------------------	---

町屋委員 事務局	<p>宅とか関係機関の職員が集まって、南区の課題について話し合いをしているのが区のケア会議になっています。町屋さんもお参加されていると思うのですが、そのほかに区ではなくて圏域ケア会議というものがありまして、そちらには参加されていますか。</p> <p>していません。</p> <p>していませんか。包括支援センターが南区には三つございまして、北圏域と南圏域と味方・月潟圏域で包括が中心となって圏域ケア会議というものも開いておりまして、その開催会議が5回ということになるのでは、町屋委員はその圏域ケア会議の構成員になっているのでは。</p>
町屋委員 事務局	<p>すみませんけれども、選ばれていないのだと思います。</p> <p>そうですか。失礼しました。中には、味方とか月潟とかは民生委員もお呼びしているところもありますのでお聞きしました。そこで会議を開いているのが区のケア会議、圏域ケア会議というものが計6回ございます。</p>
青木委員長 事務局	<p>説明は以上ですか。</p> <p>あと、普段の相談先なので、まずは地域包括支援センターが地域の相談、高齢者の総合相談窓口になっておりますので、地域包括支援センターに、あとは圏域ごとに支え合いのしくみづくりの推進員がいますので、その支え合いのしくみづくりの推進員、もしくは行政にご相談いただいて、関係者がつながることで対象者の支援になっていくと思います。まずは包括に相談していただいて、その内容が行政のところにも上がってきますので、そこで解決に向けて取り組んでいきたいと思っています。</p>
青木委員長 町屋委員	<p>説明は以上でしょうか。町屋委員、納得できましたか。</p> <p>すみませんが、包括から相談内容が区役所に上がっていないということがよく分かりましたので、今後、どのような対応をとるかというものを考えていきたいと思っています。分かりました。</p>
青木委員長	<p>個別な事例はいろいろとあるのかもしれませんが、私がコメントするものではないのですが、少なくとも私はここで言うと区全体の会議を今ある意味まとめる立場にあるので、そこの中で何を話しているかということ、ある意味南区全体の方向性みたいなもの、大きい話です。ですから、ここの認知症対策のところは過去最低となっているのは、要は今認知症の大綱が国で作られたり、認知症に関する法律が新たに整備されたりということで、認知症対策に力を入れているので、南区でもそのような目線でやっていきたいと思います、そう</p>

	<p>いう関係者が集まってというところで、出て来られる民生委員は、ここの区の会長、副会長という代表が出て来られていると思えます。ですので、その圏域のところがそれぞれの包括支援センター単位の中で民生委員がどういう人たちを人選されて承知しているのかは私は分かりませんが、恐らく今町屋さんがおっしゃりたいのは、課題を抱えた人が目の前にいて、何とかしていきたいのだけれども、それを解決するために一緒に動いてくれる人がいるようでいないような感じを、私は、今お聞きしてそういう理解をしました。要は、包括に相談しても、結果的に解決に結びついていないということなのではないでしょうか。それが今の話で分かったということをおっしゃったと思いますので、この辺は、少し目詰まりを起こしているような感覚がしますので、ぜひともこれは全体の話としてはあれですけども、まずは区の健康福祉課と町屋委員がおっしゃりたいことをまずは整理をして、どこの問題があるのかをぜひ明らかにして、解決に結びつけてください。よろしくをお願いします。</p>
藤島委員	<p>味方地区の藤島です。町屋さん、私たち味方の方は、1月だったと思うのですが、この各ケア会議の開催ということで、民生委員の定例会議の時に出席を取られて、出られるのならばということで、この11日にケア会議を味方の方であります。民生委員全員に声が掛かっておりました。ということです。</p>
青木委員長	<p>では、よろしいでしょうか。町屋委員、また何か、不安だという形で終わってしまいそうですけれども、よろしいですか。</p> <p>では、ほかはいかがでしょうか。では、仲野委員、お願いいたします。</p>
仲野委員	<p>茨曾根の仲野です。私、2年前にも同じことを質問しているのですが、5ページに書かれている「はかろう体重」のことがどうしても気になっておまして、これは実績を見ますと、令和6年のカード提出が716枚、令和7年、これは見込みということでありますが、677ということで40枚くらい実際に減っている。これから出してくる人がいるのかどうか分かりませんが、今現在の数字としてはこれ、数字が減っているという現状ですね。ここに書いてあるコメントとしては、初めて参加した人が109人ということで、とてもこれで効果があったというような見方をされているような書き方ですけども、実質参加している人は目減りしているというような状況で、歩数が増加した人も結局半分には達していないということで、実際のところ、この事業そのものが効果のある事業になっているのか、これは健康福祉課としても</p>

<p>青木委員長 事務局</p>	<p>予算を使って行っている事業だと思いますし、もう少し何かやり方があるのではないのかなということで、例えば、私、サラリーマンでやったときに、私が所属していたところの健康保険組合とか、やはり同じような歩こう選手権みたいな取組みがあつて、毎日1万歩歩いたのが月に何日間あつたら達成賞として金一封差し上げるというとか、何かそういうイベントがあつて、皆、お金がもらえるのだったら頑張って歩こうかなみたいな、そういうものがあつたりしたのですけれども、実際、今やっている取組みとしては、これはカードを出したからといって何か特別ご褒美があるわけではないみたいですし、ただ書いて出すだけで、これでどのくらいの効果があるのかなと。実際、私も地域生活センターで少し仕事をしていたりしているので、この冊子も毎日のように見ているのですけれども、あまり持って行く人もいませんし、来た人に強制的にこれを持って帰つてと言つて無理やり預けているような感じになってしまっていますし、ほかの地域で聞いてみると、小学校に行つて無理やり子どもにその紙を配つてきたとかと言われたところも実際に私は聞いていますし、何か非常に地域のほうで、生活センターの人たちもこの扱いについて困っているのではないかと思つたりするのです。そういうことなので、もう少し健康増進に役立つ方向にこれをもっていけないのかなということで、ではどうしたらいいですかと言つて建設的な意見は今浮かんでこないのですけれども、もう少し何か案がないのかなということで、毎日私ももやもやしながら、私自身も実はこれに参加はしているのですけれども、自分で体重とか歩数とかを書きながら、これは何か意味があるのかなと考えながら、自問自答しながらやっているのが現実なので、もう少し何か工夫が必要なのではないかなという私の意見でございます。</p> <p>ありがとうございます。では、事務局、いかがでしょうか。</p> <p>健康増進係の岩見です。去年もご意見をいただいたり、今のご意見でも、非常にこの事業のことを深く考えていただいているのがよく分かりまして、本当にありがとうございます。おっしゃられたご指摘、全部まとめてみまして、いくつか思うのですけれども、事業効果が、成果が上がっているのかどうかということ、あとは地域で配られたカードの扱いに困っている地域があるのではないかということ、あと、もっと企画として工夫ができないのかということ、いくつも要素があるお話だつたと思いますが、一つずつこちらの考えで説明させていただきますと、こちら、カード提出の677人には景品が出ております。先ほど経験的に金一封をもらわれていたことがあるということでした</p>
----------------------	---

仲野委員	<p>が、金一封まではいきませんが、300 円分の達成賞を配っております。その 300 円の達成賞は、公共施設に 1 回無料で入れるか、あるいは 300 円の券として区内の果樹園や福祉作業所などの飲食店で使える、どちらかで利用できるようになっていました。確か昨年のご意見では、公共施設に 2 回くらい、体育館やプールに 2 回くらいは入れると効果が少しは出るのではないかとのご意見をいただいて、担当課に相談にも行ってまいりました。ですが、2 回も無料で入られると、やはり向こうも収支がありましてできないということで、その工夫は絶たれてしまいました。</p> <p>事業効果については、景品が目的というわけではありませんが、やはり 677 人が少ないとは私は思っておりません、もっと人口の多い西区などと比較しても、やはりウォーキングの企画で何百人という方の参加を得るということは容易なことではないと思っております。南区でウォーキング講座をしていますけれども、その講座も 15 人定員がやっと埋まるくらいですので、そう考えると講座でやった 15 人埋まるかどうかのところ 700 人くらいのご参加があるというのは、ある意味運動のきっかけづくりとしては、費用対効果ではきっかけは提供できているのではないかと考えて続けているところです。その 700 人の人が継続運動できているかどうかまで、そこまで追ったり追加で達成賞を出したりという、そういう強化はできていませんけれども、きっかけづくり、入口編としては皆さんが反応してくれている事業だと思っております。</p> <p>もっと企画を改善できないかということで、工夫できるのではないかとということで、やはり景品を工夫するのが一番手っ取り早くて、来年度の景品の 300 円券のあり方も変えたり、あとはカードの配布先、地域で余って困っているという、今、貴重な生の声をいただきましたので、むやみに地域に配るとするのは我々も少し目標を変えようと思ったところです。今まで 1 万枚のカードを配ることが長年の目標でしたが、地域に余っているということであれば、やはり配り先を変えまして、健康経営企業ですとか、あとは提出率がよいコミ協がありますので、それぞれの達成賞の返還率に合わせて、取り組んでくれるところに配るような形で、一律 1 万枚配るところから少し濃淡をつけた配り方をして、より反応があるような企画に変えようと思っております。来月、来年からは、少しリニューアルをしたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。そのカードの配り方は、本当に考えてください。茨曾根でも実際のところ、先ほど茶の間の話をしましたけれど</p>
------	---

青木委員長	<p>も、民生委員の方に茶の間にそのカードを持って行ってもらって、参加した人に皆これを書いてねと言って配ったりして、多分茨曾根はだいぶ増えていると思うのですけれども、それが成功事例と言えるかどうかは分かりませんが、またいろいろ考えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。</p>
	<p>ありがとうございました。大事なご指摘で、またそれをヒントに事務局で新たにインセンティブをどう上げていくかということを考えてください。</p>
	<p>一方で、今みたいにカードや紙を配るという、ある意味非常にアナログ的なところも大事なのですが、恐らく今皆さんもそうですけれども、何とかウォッチみたいなものを付けて歩数を測ったり、アプリで自分の健康管理をしたりなどということが今当たり前の時代になっているので、なかなかそういうアナログで自分で歩数や体重とかを書いて記録に残す、それを見て気づきを得るということは大事なことなのでしょうけれども、恐らくする側は煩わしいと思う人もいるのだと思うので、いろいろな考え方がある中で、事務局がおっしゃったとおり、漫然と何枚配ったから目標が達成できたという、そういう指標での測り方ではなくて、これはなかなか結果や効果というのは出しづらいですよね。これがうまくいったからといって医療費が下がったとか、介護保険料が下がったということが目に見えて分かればいいのですが、そういうことはなかなか長期的に見通せませんので、まずは今仲野委員からおっしゃっていただいたことが、すごくある意味現場というか、本筋だと思いますので、ぜひ参考をお願いしたいと思います。</p>
西野委員	<p>仲野委員の続きなのですが、やはり私もこの「はかろう体重」、その上にある集団健診もそうですよね。自ら予約した人は57人だったのだけれども、実際に135人いた。これはどういうことかと言うと、何かの意味で増やしたのですよね。チラシだけを見て予約した人は57人だったのだけれども、電話勧奨とか何かをやった結果なのか、135人いたと解釈すれば、この下の「はかろう体重」なども、もっと積極的に、チラシでもってじっとして待っているのではなくて、積極的に動いたほうがいいのかなど、動いてもらいたいと思ってコメントさせてもらいました。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございます。では、今の西野委員のご発言に、何か事務局からお返しできますか。</p>
事務局	<p>健康増進係の岩見です。西野委員の積極的にというのは、行政が積極的に配ってPRしたらいいのではないかという意味ですか。住民が</p>

	<p>もっと積極的にという意味ですか。</p>
西野委員	<p>行政が積極的に動く。行政は、担当とかに頼むね、頼むねだけではなくて、健診に引っ掛かったような人たちのリストなどもあるかもしれない。そういう人たちを積極的に行政が入っていったらいいのではないかということです。</p>
事務局	<p>分かりました。今のご指摘のとおり、確かに我々がコミ協とか小学校に配ってねとお願いしておろすようなお願いの仕方が主流なので、自分たちが直接どこかの団体に行って配るということはやっておりますけれども、それは主流ではないので、またそういう場を見つけて、なるべく直接でも足を運んで配れる場を見つけていきたいと思いません。</p>
青木委員長	<p>よろしいでしょうか。ここは何か難しいですよ。恐らく健康の維持とかは、行政にやらされて健康を維持するというのも、これは自己責任だということがベースにあるので、それを行政も限られた職員の中でどれだけできるかということもあるので、ただ、今西野委員がおっしゃったとおり、やはり健診に引っ掛かって悪いのが分かっているのだけれども、それが受診に結びついていないというようなことが仮にあるのであれば、もっと強い働きかけをしないということですよ。そのように受け止めて、でき得る範囲の中でお願いしたいと思います。</p> <p>では、ほかはよろしいでしょうか。</p>
青木（昭）委員	<p>一つお願いと、あと二つほどお聞かせ願えればと思います。お願いの一つは、5ページ目です。ほかのページにもあるのですが、上から3番目でしょうか、運動や食事などのということの内容についてなのですが、どうしても私は仕事柄という感じで、数値評価になるために、いわゆる数字の単位を合わせてもらえればなというものがお願いです。人と何割以上という表現があるのですが、何割以上というのが何に対して何割なのかなという、この188人に対しての9割以上ということであれば数字が分かるわけなので、2桁の数字を入れてもらうとか、何かそういうことで、ぜひ数字の単位を合わせてもらえればなというのが私のお願いです。</p> <p>それから、内容的には次の6ページ目です。（1）の地域のボランティアの一番上、これも数字評価になっているわけなのですが、相談随時というところでどうしてA評価になっているのかなというところと、それから上から4番目のボランティア養成講座の開催ということで、6年度の実績には3回、7年度の計画は2回ということが挙</p>

<p>青木委員長</p>	<p>げられているわけなのですけれども、このそれぞれの回数のテーマというのは3種類あったのか、2種類あったのか、それとも一つのテーマで絞っていたのかというところです。</p> <p>では、事務局から、最初に、全般的に言えることですが、先ほど青木委員からもご質問があったとおり、何パーセントと言われても、その分母がよく分からないということなのですよね。要するに分母がしっかり表わされていないからパーセンテージとしての感覚がよく分からないというのがありますので、一応ご要望として、これは今後資料を整えるに当たって、その分母というのがある意味目標値として分母を設定して、それがどれだけ達成できたみたいなことも当然出てきますので、そこを少し改めていただきたいということと、あとは6ページのところ、先ほど少し言いましたけれども、コメントと課題の空白欄がだいぶ目立ちますので、そこを説明がない中で特に一番上にある白根健康福祉センターをボランティア活動の拠点として活用しているというのが「相談随時」となっているのになぜそれがA判定なのかという中身でしょうか。そういうことも含めながら、少し説明をしていただけますでしょうか。</p> <p>そうしましたら、時間も押していますので、大変面倒になるかもしれませんが、今、6ページのところ、コメント・課題欄がスカスカなので、ここを埋めていただいて、改めて委員の皆様方にお送りいただくことはできますでしょうか。もう今日、明日にしろということではないので、お時間のあるときでけっこうだと思いますけれども、そこを埋めたうえで評価がAなのかBなのかCなのかということを委員の皆さんは多分見たいのだと思いますので。では、お答えは今求めませんので、そこを埋めていただくということをお願いしていいですか。いいですか。では、青木委員、それでよろしいでしょうか。</p>
<p>青木（昭）委員</p>	<p>はい。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>では、ほかに。</p>
<p>青木（昭）委員</p>	<p>単位の統一はどうなるのですか。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>単位の統一。それは、全部できますか。</p>
<p>青木（昭）委員</p>	<p>何割という表現ではなくて、パーセントではなくて、同じようなものに、片方は188人ということであって、そして右のほうにいくと何割以上という表現があるわけなので、その辺でどうして具体的な整数の数字が出てこないのかという感じが。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>そうしましたら、今、この3月の年度末も押しているときなので、今回、その修正、訂正については、大変恐縮ですけれどもご勘弁い</p>

<p>社会福祉協議会</p>	<p>ただいて、ここのコメントの課題の空白の部分だけはずいぶん、ここがないとA B C Dの意味がまったくよく分かりませんので、次年度以降の計画書を、評価表をまとめていただくにあたっては、今ほど青木委員がおっしゃったとおり、単位やそういうものをしっかりそろえていただく表記をしていただくということをお願いしたいと思います。</p> <p>では、あと残り 20 分ほどしかなくなりましたので、まずは高齢者介護支援、地域づくり分野については以上とさせていただきます。</p> <p>続きまして、次第のほうにまた戻りますが、議事の（2）になります。南区地域福祉アクションプラン地区別計画における令和7年度の取組みと評価についてということで、説明をお願いしたいと思います。</p> <p>お疲れさまでございます。続きまして、令和7年度の地区別計画の推進についてということで、皆さんのお手元の資料2の「南区地域福祉活動アクションプラン地区別計画評価表」をご用意いただければと思います。こちらは、各地区の今年度の地区別計画の進行について一覧にしたものになっております。今回の様式につきましては、昨年度まで、前回委員会でA3版で集約した様式を提出させていただいたのですけれども、以前提出していたA4版の様式のほうが、そちらでも望ましいのではというご意見もいただき、また検討いたしました。また、文字の大きさとか、地区ごとに分けて整理させていただいてますし、実際、この様式が各地区のアクションプラン推進委員の方々とともにお作り、報告しているものですので、そういうものを直接生に渡したほうがいいのではないかとということで、総合的に判断して今回よりこのようなA4版の様式に変更させていただいております。ご理解のほどよろしく申し上げます。</p> <p>今年度のこの地区別の計画についてです。6月、7月から各地区において検討委員会を中心に、計画推進のために会議を開催いたしました。その内容につきましては、前回の委員会にてご報告させていただいたところです。その後、各地区での活動を経て、1月から2月、再度地域の福祉活動を担ってくださっている皆様にお集まりいただき、地区別計画に基づく令和7年度取組み状況について振り返りと評価の話し合いをさせていただいたところでございます。今回の本資料は、令和6年度からの引き継ぎ内容を踏まえて、各地区における推進目標に沿って実績を確認して評価をするとともに、新たに見えてきた課題を整理して、それを踏まえた次年度に向けた取組みの方向性をまとめたものです。</p> <p>主に各地区の報告、裏面、表の見方になりますが、めくっていただ</p>
----------------	--

くと、表面に地区ごとの名前が出ていますが、これが実施の内容なのですが、その各地区のところをめくっていただくと、ちなみに今例えば今2ページをめくっていただくと、これは見方とすると新飯田地区の部分になりますが、評価となっている部分です。これは、今年度の取組みに対して地区の皆さん自身の会議の中で評価していただいたものになっております。この住民参加とあるのは、住民参加のもとで地区別計画に取り組みましたかという評価、その下の協議の場づくりというところですが、これは地区別計画を取り組むにあたって話し合う場面を設けたか、その下の関係機関団体との連携、協働、つながり、広がりというところですが、取組みを行うことで地域住民や関係機関、団体などとのつながりができたり、活動に広がりがあったかどうかということを見ています。その下、住民の理解、促進となっているのは、取組みに対して成果があったか、関心や理解を深められたか、そして周知、PRとあるのは、活動の前後で地域住民は関係機関や団体に対して周知を行ったかという評価項目になっています。これは、先ほどいろいろと数値をとるところもお話しがありましたけれども、なかなか地域活動を数値化で評価することが難しい部分もありまして、数値で計る指標があるものではないのですけれども、昨年度の活動事業や取組みと比較して少しでも前進していたらよい評価というような形でしております。

それでは、評価表の見方をご説明させていただきましたが、各地区の取組み内容について代表的なものをご紹介しますと思います。

ページは少しお戻りいただいて1ページ目、2ページ目になります。1ページ目、新飯田地区になります。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」について、地域の茶の間がない自治会のエリアにおけるコミ協主催の移動式茶の間を今年度も継続開催され、館と古町地区で実施され、初めて参加される方も多くいらっしゃいました。また、引き続き地域の事業所である特別養護老人ホームが茶の間への送迎を担ってくださるなど、地域と福祉施設のつながりも継続して構築されています。

推進目標二つ目「地域活動への住民の参画推進」では、ラジオ体操カードを全戸配布したことで、小学生だけでなく高齢者や大人も参加するようになりました。その結果、地域内で顔見知りが増えるきっかけとなって、これも世代間交流の活性化につながっております。今後も茶の間拡大、世代間交流の定着化を引き続き進めていきたいと考えております。

2ページめくっていただくと、茨曾根地区になります。ページで言うと3ページ目になります。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、グラウンドゴルフをきっかけに、介護予防、フレイル予防を意識した場づくりを行っております。参加者同士の顔の見える関係が広がり、地域での見守り機能の強化にもつながっているところです。

推進目標の二つ目「子どもたちを地域で育てる取組み」では、茨曾根フェスティバルで小学校やPTAの皆さんとともに企画、運営を行っております。多くの若い世代からかかわっていただくことも踏まえつつ、子どもたちが自分の地域に親しみや愛着をもてる機会として実施しているところです。一方このフェスティバルでは、地域の魅力を外部に発信する機会にもなっているのですが、その地域の方を優先した運営のあり方について、さまざまなおところ、さまざまな団体、さまざまな地域の住民の方が関心をもっていただくのですが、当面は自ら、自分たちのこの地域の還元ができていくかというところが少しご意見が出てきまして、今後さらに検討が必要だと感じております。今後もこういう事業を活用して、介護予防、見守り、あと地元愛の定着を深めていきたいと考えております。

おめくりいただきまして、5ページ目になります。庄瀬地区になります。庄瀬地区では、推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」において、生活支援サービス「なじらね庄瀬」を継続しております。地域では、開業医の閉院や買い物場所の不足などによって移動支援のニーズが高まっております。また、利用する方々で認知症のある方の支援なども求められる対応も広がってきております。今後もこうしたニーズに応じていけるよう、利用ルールの確認を行うとともに、ボランティアや担い手の募集に継続して取り組んでいきたいと考えているところです。

また、推進目標四つ目の「組織強化」において、各自治会から保健推進員などを選出してもらうことで、多くの方に地域にかかわっていただくこと、それが自治会長への負担軽減にもつながっているというような取り組みもされています。そして地域の障がい者就労施設との継続的なつながりも大切にしながら、事業を通じた交流を行っております。地域の社会資源である小学校を活用した「夜の学校」という事業も行いながら、世代や地域の枠を超えて運営団体からさまざまな人がかかわることで自発的に地域行事に参加する動きも広がっています。今後もこういう既存の事業を大切にしつつ、ほかの団体とのコラボレ

ーションなど工夫を重ね、マンネリ化しないように継続して取り組んでいきたいと考えております。

二つめくっていただくと、小林地区になります。すみません。この小林地区のところで、文面のところに「小林新選組」という言葉が若手の担い手グループで出てくるのです。すみません。この「選」という選ぶという字が手偏の「撰」という字になりますので、この場を借りてお詫び、訂正申し上げます。申し訳ありませんでした。

小林地区におきましては、推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、生活支援サービス「お助け隊こぼやし」が継続して活動しているところです。また、南区の交通対策として、今年度、生活支援サミットもこの小林地区を中心に開催いたしております。先ほども庄瀬のところでもお話ししましたが、一方で活動が広がる中で認知症の方への対応など、専門性を要する依頼も増えてきているというところで、今後は、この専門的支援につなぐ前段階としての役割を整備しながら、社会資源として専門職がこのお助け隊こぼやしの理解も含めながら、いろいろ共有していくことが必要なのだなということでご意見が出ていました。

推進目標の二つ目になります。「子どもの健やかな成長を育む取組み」では、「小林収穫祭」などをとおして、先ほども話した若い担い手の「小林新撰組」がコミ協に参画して企画運営にも携わってくれています。今後も継続してかかわる仕組みを整えていくことで、将来の地域活動の担い手につながることを期待しながらやっていくということと考えているところです。今後もコミ協として地域の健康づくり啓発にも力を入れて、次年度におきましては、運動に加え健康講話や飲食などを含めた健康増進の事業を、今年度は太極拳とかそういうこともやっていましたが、10回以上は実施していきたいということでお話が出ておりました。

2枚めくっていただいて、9ページになります。臼井地区になります。推進目標の一つ目「交流・仲間づくりができる集まる場がある地区」という事で、6月に小学校で合同防災訓練を実施いたしました。小学生とコミ協役員などが参加して、煙テントや水消火器訓練などを開催しております。役員の交替が例年ある中で、継続的な事業の実施に向けて、引き続き内容や体制の確認が必要になってくるだろうということで、ご意見が出ております。

推進目標二つ目「ボランティアや地区活動を理解し関心をもてる地区」ということで、小学校、中学校では年2回あいさつ運動や花いつ

青木委員長
社会福祉協議会

ぱい運動などの事業を行っております。開催日だけでなく、継続して活動ができるよう、既存の事業を増やすなど検討し、住民同士のつながりづくりの機会をさらに深めていこうとご意見をいただいているところです。

二つめくっていただきまして。長いですね。

あと10分しかないので、少しかいつまんでいただいてもいいですか。

分かりました。大郷地区になります。大郷地区、担い手ということで、育成ということで小学生との多世代の交流をすごく充実してやっていると、ここがメインとしながら今後も既存の活動、事業を実施していこうということで書いております。確認等、中身を見ていただければと思っています。

13ページ、鷺巻地区になります。こちら交流の機会の創出ということで、コミュニティカフェとかそういうところのいろいろなSNSを活用した発信を積極的にやって、広がっているということです。また、防災の取組みについても鷺巻地区の中で危険について学ぶ機会を得てやっているということで、今後もそういうところの情報発信を大事にしながらやっていきたいということでお話が出ています。

15ページ目になります。根岸地区になります。根岸地区は、ゴミ出しの支援事業等をやっているところですが、高井東というところですが、高井東の自治会で今後も増えていくけれども、その辺、担い手の部分が課題だということになっています。そういうところ、担い手の部分が、今後同じ自治会の中でも温度差が出てくるのでどうにかしていかなければならないという話が出ておりました。あと、防災・減災についての取組みも実施していますし、こちらはSCの方が事前にアンケートを取られました。今後、そのアンケートを活用しながら、どのようにやっていこうかというところを話し合いが出ていますし、そういう中で茶の間等をつくっていければということで話が出ておりました。

では、17ページになります。地域活動への取組みということで、大通地区、クリーン作戦ということをやっていますが、これを広げたいということが出ていますし、やはり先ほどもあった生活支援サービス「思いやりネット」の今後の移動支援の問題とか、そういうものも出ています。あと、茶の間の活動とかいろいろなところで引き続き利用している「ボッチャ」というユニバーサルスポーツ、これをすごく活かした事業が今年度広がりましたので、そういうところで実施していきたいと出ております。

	<p>続いて2ページめくっていただきまして、白根地区になります。こちらでも生活支援サービス「白根お互いさま支援隊」のほう、こちらをブラッシュアップしていきたいということと、災害への取組み、あとはさまざまな依頼の中でも小学校、中学校、高校等の学校関係者とも取組みについて確認をやっていきたい。そのためには、まずその状況を確認しなければだめだよねというようなところでお話が出ております。</p> <p>では、21ページ目になります。味方地区になります。味方地区におきましては、「みんなのみかた応援隊」、支え合いのしくみ生活支援サービス、こちらでいろいろな高齢者の生活ニーズに応えることができているというところ。あと、さまざまな推進目標の中で、小学校、中学校、多世代の交流をしながら地域活動の縦割りのところを上手に使いながら、いろいろなイベント事業に参加しているということが出ておりました。今後もそういうつながりを意識して、いろいろやっていくということが概ね書いております。</p> <p>最後に、月潟地区になります。月潟地区におかれましては、「つきがた便利帳」というものを配布しながら、それを媒体としていろいろ取り組んでいくということが書いております。また、移動式の茶の間、「ふれあい茶の間」も実施いたしましたし、民生委員も替わられたということも先ほどお話がありましたが、情報共有の場ということで、その辺りも考えていらっしゃるようです。</p> <p>以降、12地区になります。駆け足で説明させていただきましたが、皆様、推進委員の方々のご協力もいただきながら実施していることもありましたので、次年度も引き続き実施させていただきたいと思っておりますし、ご協力、ご支援のほどよろしくお願ひしたいと思っております。すみません。以上です。</p> <p>ありがとうございました。すみません。私の進行がうまくなくて、あと残り五、六分しかございません。今日、まだご発言いただいている皆様方から、特に今の各地区ごとの説明に何か補足等がもしございましたら、では、寺嶋委員が最初、その後に阿部委員、池田委員、長谷川委員からコメントをいただきたいと思っておりますので、お願いします。</p> <p>地域の茶の間というところで先ほどお話が出てきたと思うのですが、地域茶の間ではないのですけれども、新飯田地区では、地域の文化祭で今回お茶席を設けまして、そこで小学生、中学生が浴衣を着てお手伝いに入ってくれたのです。そうしたらすごく場が盛り上</p>
青木委員長	
寺嶋委員	

<p>青木委員長 阿部委員</p>	<p>がって、大盛況だったというところがありまして、やはり多世代でごちゃまぜでやっていくというのがすごくいいのかなと思ったのですが、そこにつながるのですが、このアクションプランの中でも若い世代との交流推進というところから出てきていたのですが、白南中学校で毎年探求の授業がありまして、そこで「大好き新潟」と言っていて、南区の福祉課題について中学生が探求をして、いろいろなアイデアを出していくという、けっこう長い時間をかけてやるのですが、そこで子どもたちからすごく毎年いいアイデアが出てくるのです。そうなのですが、そこでアイデアプレゼンをするというところまでがゴールになっているので、毎年すごくもったいないなとは感じていて、そこで出てきたアイデアが、少しでもいいのですが、一つでも二つでも地域とか先ほどの茶の間とか、一緒に何かアクションにつながれたら、多世代交流にもなるし、中学生のやってみたいという自分事の発信のプレゼンも生きてくるのかななどと考えました。</p> <p>ありがとうございます。続いて阿部委員、お願いします。</p> <p>臼井コミ協の阿部でございます。資料の9ページです。私どもでは、できるだけ小学生からお年寄りまでができる限り顔を合わせていろいろなイベントができるような場を設けたいということで、防災、あるいは花いっぱい、それからあいさつ運動、それからお祭り、お年寄りの前で子どもたちがステージに上がってパフォーマンスを披露してくれる。そういう機会をできるだけ多くしていきたいと考えています。ただ、残念ながら、役員の入替わりが毎年1年ごとに変わってしまう。これは何とかして、役員が発掘と、それからこちらのほうに続けていきたいなど。私もコミ協に入ってからズルズルと引き継いで今3年やっておりますけれども、私が早く卒業できますように。というのは冗談ですが、一番困っているのは、防災関係です。防災もやはり役員がどんどん抜けてしまうということで、避難支援者の名簿をいただいても、では誰がこの人たちを助けに行くのか。そういう課題は早めに解決しなければいけないと。もう一つ、昨年も話をさせていただいたのですが、高齢者施設が地元の一つあるのです。大切なお爺ちゃん、お婆ちゃんを預けているところ、当直の職員が一人だったりして、ここでもし何かがあったときに、誰がこの人たちを背負って動くのかどうかは別にしても、助けに行けるか。防災会議が集まった時点では、毎年何とかしましょうねと話しているのですが、毎年入れ替わるので、毎年私がそこに首を突っ込んで何とかしません</p>
-----------------------	--

<p>青木委員長 池田委員</p>	<p>かという話をしていると。これを、何とか課題解決したいなと今思っております。すみません。雑ばくな話ですみません。</p> <p>ありがとうございます。では、池田委員、お願いします。</p> <p>根岸の池田です。根岸も大通の川口さんからアンケートを取らせてもらって、やっと庄瀬、小林、味方地区に諸々の住民のサービス、ゴミだ、買い物だとか、そういうことを考えよう、茶の間も 11 ある地区の三つくらい、ほかの地区も追いかけて何とかしよう、やっと皆さんの地区に倣って何とかしようという動きが今年から出てくるだろうと思って楽しみにしています。</p> <p>あと、今年 11 自治会がある中で、九つの自治会長が替わられたので、またその辺の引き継ぎ関係も大変になってくるし、それでも自治会長も若くなりましたし、組長も若くなって、平均年齢が 60 を切ったくらいになったのではないかなと。今までは 70 近かったのですけれども、若い世代が皆引き継いでくれているので、もう少しスピードを上げて皆さんの地区に追いつけるように頑張ってくれるのではないかなと期待しているところです。</p>
<p>青木委員長 長谷川委員</p>	<p>ありがとうございました。では、長谷川委員、お願いいたします。</p> <p>ほかの地区の方の話を聞くと、小学生や中学生と一緒に活動するみたいな機会がたくさんあるようなのですけれども、白根地区は広くて学校の規模も大きいものですから、そういう機会は非常に少ないです。防災訓練などで声をかけても、来てもらえないというのが現状でした。これからもその辺、声をかけていかなければならないなとは思っているところです。</p> <p>それからもう一つですけれども、どこかで話がありましたが、社協と包括とコミ協と、それから役所の方と我々民生委員みたいなのが、似たようなところで似たようなことをやっているのだけれども、何かバラバラになっていてつながっていないなということを時々感じるものですから、その辺、何かスパッといく手はないかなと思ったりしているところです。</p>
<p>青木委員長 袖山委員</p>	<p>ありがとうございました。では、各地区ごと、本来であれば、すべての地区からコメントをいただきたいところですが、時間の関係があります。最後に袖山委員と宮崎委員、今後、地区と離れて全体をとおして何かコメントがありましたらお願いいたします。</p> <p>身障者協会の袖山です。いつもありがとうございます。私、全然違うことなのですが、例えば人と人がすれ違うときに、こんにちとはとか、そういうあいさつが浸透する南区になってくれたらいいかなと思っ</p>

<p>青木委員長 宮崎委員</p>	<p>て、山とかに行くと自然にできるのですが、小さいお子さんたちにもできるのですが、眉間にしわを寄せたお爺ちゃんとかにはなかなか声がかけれなくて、それが南区はあいさつをします、しましようという声掛けが公式にあれば、もう少し勇気も出るし、大事なことなのかなと思っています。</p> <p>ありがとうございます。では、宮崎委員、お願いいたします。</p> <p>鷺巻地区の宮崎です。全体をとおしてというよりも、やはり同じような課題が皆さんもっておられるのかなと思うのですが、自主防災、これは毎年やっています、ただその中で、防災士を目指して防災士が必要だということで、鷺巻地区では防災士を今4人育成、指導していただきました。なおかつもっと高度な防災を皆考えていかなければならないよと、そういうことも言われまして、ただ要支援者の誰がどうやってという、なかなかその地域、隣同士で、私どもはまだ組というものがありまして、5人組、隣組で何とかやろうよと。けれども、今は外へ働きに出ている人が多いものですから、なかなか高齢者が高齢者を老々介護になってしまうので、なかなかうまくいかないという現実があるのですが、そういうところでもなおかつ何か指導をしていただけるものがあれば、地区ではリヤカーであるとか、いろいろそういうものを揃えてはおりますが、実際に誰が誰をというところをまだ詰め切らないところがありますので、ちょうど消防を上の方がいろいろそのように教えてくださるので、もっともっと、毎年皆で集まって三角巾だとか、人工呼吸で、そういうことだけではなく、もう一歩進んだ防災をしていかなければならないのかなと。白根市は川に囲まれています。水害、これについて一番考えなければならぬとは思いますが、もっと身近に高度なものが何かあればいいかと、教えていただければと、行政からもお願いしたいと、そのように思います。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>ありがとうございます。もう少し時間があれば、もっとご発言いただきたいところがありますが、時間がもう予定を超過しております。お許してください。</p> <p>では、以上でまずは、本日、私に与えられた議事の進行は以上とさせていただきます。どうぞ事務局の皆様方、今、委員の皆様方からいろいろいただいたご意見、ご要望等については、次期の計画のところの一つでも二つでもぜひ反映していただきたいと思っております。では、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>青木委員長、ありがとうございました。</p>

続きまして、次第の4、連絡事項です。2点ございます。1点目ですけれども、先ほど分野別計画の取組みと評価の中で話題に出ましたけれども、進行管理表の6ページと7ページですか、社会福祉協議会の分の入力していただいた後に、何らかの形で委員の皆様はその内容をお示ししたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2点目ですけれども、次回の会議の開催ですけれども、現在のこの計画が8年度、次年度末で終了いたします。そのため、次年度は、87年度の委員会は、次期計画の策定年度になるところなのですが、現在、その計画の内容につきまして市全体で検討を進めている最中でございます。よって、次年度の次回開催につきましては、また時期が近づきましたらご案内したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして令和7年度第2回南区地域福祉アクションプラン推進委員会を終了いたします。どうぞお気を付けてお帰りください。ありがとうございました。